索道事業安全報告書（2026 年度）



株式会社ハーレスキーリゾート

2025 年 8 月 1 日～2026 年 7 月 31 日

裏太郎クワッド	(旧ステージ３)
表ダボスクワッド	(旧ビート１)
表太郎トリプル	(旧グラン)
白金トリプル	(旧マック)
シーハイルトリプル	(旧ステージ１)
裏ダボストリプル	(旧ウェーブ)
ステージ２リフト	

1. 利用者の皆様へ

平素より、菅平高原スノーリゾートに所在するハーレスキーリゾートをご利用いただき誠にありがとうございます。

当社は、貴重な自然を最適に活用することにより、お客様、地域社会すべてがハッピーとなるようなスキー場運営を目指しております。これらの基礎は「安全」であるとの認識のもと、重要な行動指針として「安全の確保」を掲げ、法令遵守のとも安全輸送に努めております。

本報告書は鉄道事業法に基づき、当社の基本方針、安全輸送の為の取組みやその状況について公表するものです。安全を最優先させる基本方針のもと、経営トップから現場の職員まで当社一丸となって事故をなくすべく安全な運行を目指してまいります。

また、利用者の皆さまからの声を当社の事業活動に役立てたく、ご意見を頂戴できれば幸いでございます。

株式会社ハーレスキーリゾート
代表取締役社長
西　口　昌　司

2. 安全基本方針と安全目標

安全基本方針

当社の企業理念として、人命を尊重し、安全と健康を重視することを掲げております。
さらに当スキー場の経営理念の第一は安全確保においております。当社役員は安全第一の意識をもって索道事業活動を行える体制の整備に努めるとともに、索道施設及び職員を総合活用して輸送の安全を確保するため『安全基本方針』を次のように掲げております。

(1) 一致団結して輸送の安全の確保に努めます。
(2) 輸送の安全に関する法令及び関連する規程をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行します。
(3) 常に輸送の安全に関する状況を理解するように努めます。
(4) 職務の実施に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取扱いをします。
(5) 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、速やかに安全適切な処置をとります。
(6) 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保します。
(7) 常に問題意識を持ち、必要な変革に果敢に挑戦します。

安全目標（2025 年 8 月 1 日～2026 年 7 月 31 日）

当社では全社一丸となった安全管理体制の強化を推進しており、今後においても全社一丸となった安全最優先の意識の高揚を図って参ります。

また、過去に発生した事故のみではなく、危険の予知・予測、事故には至らなかったヒヤリハット事例を収集し、他の事故情報と比較して対策を講じる体制を整備いたします。

索道輸送安全目標（2025 年 8 月 1 日～2026 年 7 月 31 日）

目標 1　：　人身障害事故発生 0 件

目標 2　：　索道保安設備から起因する事故 0 件

目標 3　：　索道スタッフの不安全行動から起因する事故 0 件

3. 事故等の発生状況と運休状況

索道輸送事故	1 件
インシデント	0 件
災害等	0 件

ステージ 3 リフトにおきまして、安全確保のために一時停止した後の再稼働時、押送タイヤの経年劣化と空気圧の減少により搬器 1 台が押送装置内で滞留し、後続搬器の握索機（タング部）と接触する事案が 1 件発生いたしました（負傷者なし）。

該当部品の点検・交換を即時完了しており、引き続き適切な保守管理を行い再発防止に努めてまいります。なお、雷や暴風雨雪等の自然災害が発生した場合は安全のため運行を一時見合わせる場合がありますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。また、リフト乗車中は安全バー（セーフティーバー）をご使用くださいますようお願いいたします。

4. 索道輸送の安全確保に関する当スキー場の取組み

索道スタッフ教育

乗客の皆様が安心してご利用いただくために、シーズン営業開始前に、社長以下、各責任者全員にて「安全会議」と称し、事故防止について入念な会議を実施いたしました。また、各係員全員に対し、施設の保守管理・取扱い・非常時の対処方等の教育を毎年度実施しております。

加えて、社長はじめ役員の現場巡回による安全に対する指示や指導にて、係員全員が安全確保に努め、より一層の安全向上の意識を持ち職務に励みました。

グループ会社の取り組み

日本スキー場開発㈱グループ会社にて、索道における事故・トラブル・ヒヤリハットについて他事業者を含む事例の分析対策、技術情報の共有を行い、安全性の更なる向上に努めております。

お客様の安全対策

場内注意喚起掲示板を設置しています。また、場内放送内容や乗客係・誘導係の活動を常にチェック、見直しを行い、安全な乗車を促しています。

緊急時の対応訓練

索道運行停止時の救助訓練、予備原動操作訓練等を実施しています。

緊急時に連携をとる近隣救急施設

真田消防署
菅平高原クリニック

5. 索道保安設備の維持管理・改修

整備細則に基づき点検、整備及び検査を実施しました。
今年度の各リフトは主に以下の整備を実施しました。

■ グラン
折返し滑車振動検査
受圧索装置及び折返滑車点検給脂

■ マック
受圧索装置及び折返滑車点検給脂

■ ステージ１
握索機分解整備点検
受圧索装置及び折返滑車点検給脂

■ ステージ３
索条切り詰め
緊張滑車軸ベアリング及びゴムライナー交換
受圧索装置及び緊張滑車点検給脂
押送装置および握離索装置点検調整

■ ウェーブ
折返し滑車振動検査
受圧索装置及び折返滑車点検給脂

■ ビート１
受圧索装置点検給脂

押送装置および握離索装置点検調整
握索装置分解点検整備

また、中長期整備計画を策定し、索道設備の永続的な維持管理に努めています。

6. 当社の安全管理体制

平成 18 年 10 月に「安全管理規程」を制定し、社長をトップとする安全管理組織を構築し、各責任者の責務を明確にしています。

社長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	索道事業の輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
索道技術管理者	安全統括管理者の指揮の下、索道の運行の管理、索道施設の保守の管理、その他の技術上の事項に関する業務を統括管理する。
索道技術管理員	索道技術管理者の指揮の下、索道技術管理者の行なう業務を補助する。
運転係　乗客係　監視係　整備係　改札係　出札係	

役員による場内巡回

当社役員が定期的に当スキー場を巡視し、スタッフとの意見交換を通じて安全管理状況を確認しています。上記の安全管理体制により、安全マネジメントの PDCA サイクル機能の検証等を通じて定期的に確認し、その結果により適時改善を行っています。

7. 利用者の皆様へのお願い

(1) お客様の声をかたちにしています

ご利用の皆様からの安全に対する意見等がございましたら、どうぞお気軽にお寄せください。

(2) ゲレンデ内の注意事項とお願い

スキー・スノーボードはもともと雪山の中で大自然と共に楽しむスポーツです。その中には事故につながる恐れのある要素が多くあります。標示のあるなしにかかわらず、スキー場のコース内外の状況をよく判断し、事故を起こさないよう、また自然災害に巻き込まれないよう十分注意して滑走して下さい。

当社では、事故をなくすよう常に努めていますが、安全のために大切なのは、何よ

りもまずスキーヤー・スノーボーダーの皆様の注意深い行動である事を忘れないで下さい。

1. 吹雪、強風、雨、霧、雷などの天候にはご注意願います。
2. 急斜面、凸凹、地形に注意願います。
3. アイスバーン、雪崩など雪の状態に注意願います。
4. 岩石、立木、自然の障害物への衝突に注意願います。
5. リフト施設、建物、雪上車輌など人工の障害物に注意願います。
6. 他のスキーヤー・スノーボーダーとの接触に注意願います。
7. お客様に合ったコースを選び怪我には十分注意願います。
8. スキー場内では、パトロール、係員の指示や忠告に従って下さい。
9. 当スキー場管理区域外での滑走は責任を負いかねます。
10. 当スキー場ではこの告知及びスキー場の行動規則の無視、軽視による事故には責任を負いかねます。
11. 他人に迷惑を与えるスキーヤー・スノーボーダーには退場していただく場合があります。

(3) リフト乗降時の注意事項

1. 乗り方・降り方になれていないお客様は、係員にお申し出ください。
2. 乗車中は全リフト禁煙です。
3. リフトから飛び降りたり、リフトを揺さぶる行為は危険ですのでお止めください。
4. 衣服・携帯品・髪の毛等が巻きついたり、引っかからないようにご注意ください。
5. 小さなお子さまは保護者の方が付き添いご乗車ください。
6. 乗車中にリフト運転が止まっても、あわてずに係員の指示に従ってください。
7. リフトご利用時は掲示類をご覧になり、係員の誘導に従い、安全にご利用ください。
8. リフト乗降時及び乗車中の携帯電話のご利用はお控えください。
9. リフト乗車中は必ず、リフトからの落下防止のため、セーフティーバーをご使用ください。

ご連絡先

本報告書へのご感想、当社への安全に関する取組みに対するご意見等をお寄せ下さい。

〒386-2204
長野県上田市菅平高原 1223-146
株式会社ハーレスキーリゾート
索道お客様係
Tel 0268-74-2137　Fax 0268-74-3401